

中空式サーボモーターを強化

サーボモーターの高性能駆動装置開発

高精度位置決め可能に

プレス加工機などに需要

ACダイレクトサーボモーターの開発・製造・販売を手掛ける高性能駆動装置開発(甘楽郡甘楽町天引736-1、小笠原正幸社長 ☎0274-675586)は中空式サーボモーターの強化に乗り出している。機械の小型・高精度化が進む中、シャフト部のスペースを取らない上、高精度な位置決めが可能となる中空式サーボモーターの需要が増加傾向。9月にプレス加工機向けの新モーターを納品したほか、引き合いを増やしており、同社モーターの売りである「低速高トルク」と並ぶ、新たな柱に育成する。

(塚越吉洋)

通常、モーターは動力を機械側に伝えるためにシャフトを設けているが、中空式はこのシャフトにカップリングなどを用

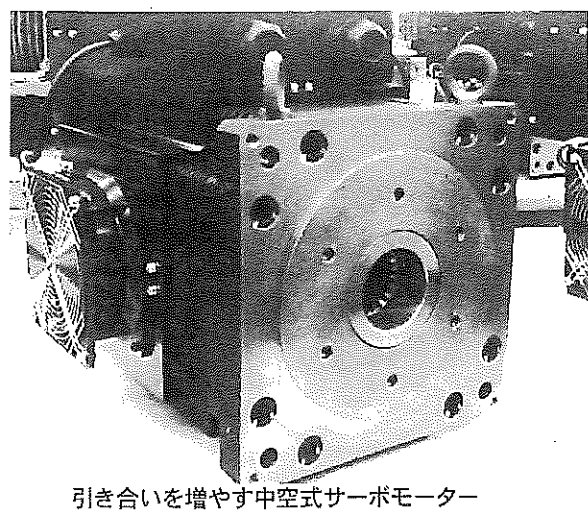
いていたが、接合部のバツククラッシュ(ガタ付き)を引き起こすなど、高い精度が要求される機械には不向きとされていた。一方で、中空式はこうした接合部が省け、ダイレクトに動力を伝えられるため、位置決めの高精度化が可能に。また、得意とするメーカーは少なく、新たな需要を取り込めると判断し、積極提案していくことにした。

今回、プレス加工機向けに採用されたのは型式「IS300-200」。最大トルク1.6キニュートンメートル、最高回転数750rpm、最大出力63kWと同社の中では中・小型の部類となる。9月に3台を納品したほか、専用機ではないため、今後も継続的な受注が期待できる。

小笠原正幸社長の話
モーターにはスピードを求めめるものなど、さまざまなものがあるが、当社が得意としているのは、一瞬の力が求められるもの。これまでは「低速高トルク」を最大の売りにしてきたが、「中空式」も加え、新たな需要を開拓していきたい。

同社は08年に設立したサーボモーターのベンチャー企業。世界最高クラスとなる最大64キニュートンメートル(フランジ角820ミリ・最高回転数350rpm)にも及ぶ低速高トルクサーボモーターをラインアップすると注力しているのが中空など、大型モーターに定式だ。

こうした中、競争が激しいフランジ角300ミリ以下のサーボモーターでも存在感を出していることが注力しているのが中空



引き合いを増やす中空式サーボモーター